

文脈の中で使えるための活用型漢字指導

広島県広島市立長束小学校 長谷川 みどり

1 漢字指導の問題点

漢字指導は、単一の漢字としてでなく、文脈の中で漢字を語彙として使えるようになり、そうすることで言語感覚を育成することが目標である。

しかし、実際におこなわれている漢字指導の多くは、ドリルにのっている新出漢字の形を模倣させたり、ドリルにある教科書での漢字の使われ方を何回も模倣させたりする「模倣指導」になっている。

このような模倣学習では、学習したことに対する応用や発展がない。単元末のテストでは漢字が書けても、漢字が教科書と違う使われ方で問われると書けない。

ここでは、ドリル中心の「模倣指導」から、子どもたちがどんな漢字も整えて書けるようになり、積極的に文脈の中で漢字をつかっていくようになる、そんな具体的な漢字指導を紹介する。

2 漢字指導の具体

漢字は、「形」字形を整えて書けること
「音」読めること
「義」意味が分かること

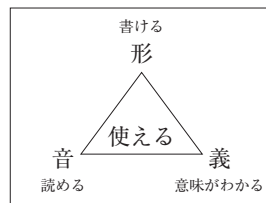
この三つをバランスよくアクセスよく指導していくことで、漢字が語彙として文脈で使えるようになることを目指す。

(1) 授業では何をどう指導するか

新出漢字では、その漢字を整えて書くためのポイントを教える。(「形」)

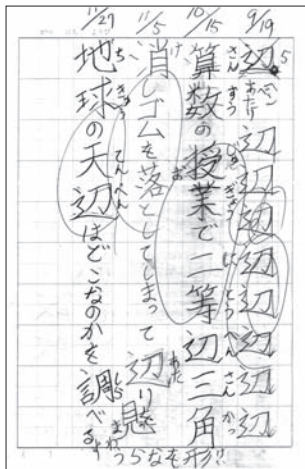
① 漢字の成り立ちを三種類でとらえる。

漢字の形は大きく分けて「上と下」「右と左」「内と外」で成り立っている。下のような補助線を入れて漢字全体に対する部分の大きさに着目させ、漢字の成り立ちの違いを理解させる。



② 字形を整えて書くためのポイントを一つおさえる。(以下、資料1参照)

例えば左のようなしんにようがある漢字は、しんにようの上のついている字の一番右端を下に延長すると大体しんにようの最底辺に当たることをおさえる。



(資料1)

③音読み、訓読みを同時に教える。(「音」)

新出漢字は教科書単元に関係なく一気に教えていく。宿題で文づくりをするために、音読みと訓読みを同時に教える。

①や②のポイントが知識としてあると、新出漢字に補助線を入れて字の成り立ちを確認したり、ポイントの部分に○を入れたりして、漢字を見る力がついてくる。漢字の学習では、一つの漢字を学習することが他の漢字を書くことに応用発展できるような漢字との出会いをさせたい。

(2) 宿題では何をどう書かせるか(「義」)

宿題では、字形を整えて書けるようになることと、漢字を文脈で使えるようになるための練習をする。(資料1 一行目)

漢字ノートは学年が上がっても五十マスをつかう。一つの漢字に対して一ページを割り当て、一年間とおして練習する。

①ポイントをおさえて字形を練習する。

新出漢字を習った日は、一行目に授業でおさえたポイントに気をつけて八つ練習していく。評価は、そのポイントをおさえて書いているかのみである。おさえて書いていたら○、いくら丁寧に書いていてもおさえていなかったら、×である。必ず、指導した内容に対する評価をする。

②漢字を使って文を作る。(「音」「義」)

残りの四行で、語彙として文脈で漢字を使う練習をする。(資料1 二行目)

一行に漢字が三つ以上使われた一文を書く。ことわざや故事成語、四字熟語でもかまわない。国語辞典や漢字辞典を積極的にひいて文をつくる。同じ使い方はしない。文をつくることで、その漢字の使われ方や漢字の意味を理解していく。

漢字は一マス、ひらがなは半マスで書く。日常的には漢字よりひらがなを小さく書く習慣がつくことをねらっている。

(3) 授業ではどう応用発展させていくか

漢字の様々な使い方に慣れるため、漢字テストを繰り返す。

ローマ字の習得もかねた漢字テストづくりを紹介する。

- ①フリーソフトでつくった漢字シートに、各自宿題でつくった文をひらがなにしてローマ字入力する。(資料2)
- ②教師は、教師用シート(資料3)
- ③に集まった全ての子どもたちの文から問題を選び、漢字テストの枠に名前入りではり付けて漢字テストを作る。(資料4)

(資料2)

番号	漢字	使い方
71	昨	さくじつはおおしごとだった
72	札	いえにはひやくまんまいのさつぱがおいである
73	期	
74	殺	きんじよできつじんじけんがおきてこわくなった

漢字テストは答え合わせに重点をおき、漢字のいろいろな使われ方を理解させる。

漢字	1	2	3	4
1	てん	の	い	の
2	は	い	の	い
3	は	い	の	い
4	は	い	の	い

(資料3)

子どもたちがつくる文は日常的な事象を表したものが多くて楽しい。漢字を積極的につかおうとするきっかけになる。出題者が入っていることも好評で、他者理解につながっている。

みんなの
漢字プリント
No.7
/ 4-2
番

3	2	1
きゆうしよくでおかわりをしようとききをあらまよう。()	うんどうかいのきようぎでときようを。()	あいこくしんがつよいひとはおとしよりがおおい。()

(資料4) 実際には、ここに児童名をいれる

(4) これからの漢字指導

今後は、「読むこと」をとおして語彙感覚を養っていくための具体的な方法を考えていく必要がある。

はせがわ みどり 子どもたちが「ちよつといい字が書ける自分が好き」と思える文字指導を目指しています。